

町立診療所 令和3年4月に「無床化」へ

何度となく議論されてきた診療所問題。主体的な経営改善への期待もある中、町からの繰出金が多くを占める経営体質の改善を求める声も大きくなっていった。

12月20日、議会全員協議会で町長から無床化方針が示された。看護職員等の医療従事者を確保できる見通しが立たず、医療事故のない中で公的医療機関としての使命を果たすことが困難などの理由から、やむなく有床を断念し、令和3年4月1日に無床化したいというもの。

財政健全化だけで捉えきれないほど難しい課題と向き合う中での苦渋の判断と言える今回の方針。町民福祉の向上に日々向き合いながら、町民の不安解消への施策なども含め、活発な協議が行われた。

町長説明要旨

経営はついてまわるが、公的医療機関は利用者視点で考えるべき。診療所を継続していくことが最善だが、従事者不足はとても深刻である。

こうした中、医療事故のない体制維持は困難であり、有床をやむなく断念する。標榜する診療科目の確保と訪問看護体制の強化と共に、医療連携を関係機関に要請して町民の健康づくりを目指す。令和3年4月1日を切り替えとしたい。

現在、地方交付税で補填される5500万円を含め、年間2億円程を町から診療所に繰り出している。無床化後は交付税補填分が毎年2000万円となるが、一般財源からの繰り出しに限れば次第に減少し、令和8年度に1億円を割る。

併せて、医師を含めた総スタッフ数も現在の43名から、無床化となる令和3年度には23名、令和9年度には16名と見込む。無床化後の診療科目は、内科、外科、小児科は配置した方が安心度は高まる。



無床化が示された町立金山診療所

(主な質疑等)

- 議員** 今後の看護師募集と採用は。
- 町長** 看護師確保は難しい。無床化すれば必要な看護師数は限られ、現在数で充足する。無理に採用すれば経営面の負担も出る。
- 議員** 方向性を決めたメンバーは。
- 町長** 設置者として判断すべきと考えていた。診療所の事務担当と役場の担当と協議して決めたもの。
- 議員** 早い時期に判断したことを評価し、進めることを期待する。町長は、終末医療が必要と説いてきたが、どう整理したのか。
- 町長** 今でも有床との思いだが、それでは経営が成り立たない。スタッフが揃わない中では非常に難しい。経営も含めて総合的に判断した。
- 議員** 病棟がなくなるが、今後の医療体制は。
- 町長** 近いのは真室川病院。新しい県立新庄病院がオープンすれば利用しやすくなり、一層医療連携を進めたい。訪問看護ステーションとの連携も強化しながら、その時点で困らないよう努力する。
- 議員** 苦渋の選択であり、町長の方針に賛成する。これからは真室川を中心とした終末医療になる。共倒れしないよう活用すべき。
- 議員** 経営委員会でも連携は必要と言ってきた。賢明な判断だと思う。
- 議員** 改革には職員研修も必要。ある程度の反発も予想されるので、ていねいな説明を願う。職員の意識も大切になるので、町長の思いを伝えて欲しい。



新年あけましておめでとうございます。
皆様の信託に応えるべく精一杯努力いたします。

議員 星川 智子
(昭和40年 巳年生まれ 1期目)

いつも初心に立ち返る。昨年掲げた公約を守ること、町民の声を怯まず代弁すること。



議員 早坂 憲明
(昭和23年 子年生まれ 4期目)

一日に感謝し、感動し、調和を願い、鼠の如く、コツコツやっています。



議員 沼澤 道也
(昭和27年 辰年生まれ 3期目)

「努力」は足し算、「協力」は掛け算と教えてくれた人がいた。そんな町づくりを。



議員 中村 忠行
(昭和42年 未年生まれ 2期目)

町の財政状況を鑑み、物事の全体を広く把握し、本質を捉える、「着眼大局」の判断が出来る年としたい。



議員 大場 洋介
(昭和48年 丑年生まれ 1期目)

何事も非難的に捉えず、批判的に考え、着実な一歩となるよう日々精進し、責任ある活動を目指します。



議員 寒河江 宏一
(昭和30年 未年生まれ 5期目)

議会活性化・財政健全化委員長として、若い人たちが住みたいと思える金山を目指して頑張りたい。



議員 栗田 保則
(昭和25年 寅年生まれ 5期目)

多様化する社会・経済情勢を的確に把握し、金山らしさを感じられる「持続可能なまち」の実現を目指します。



副議長 須藤 典夫
(昭和29年 午年生まれ 6期目)

今年はおリンピック、パラリンピックで日本中が燃える年になりそうです。私たちが元気をもらい前進です。



議長 柴田 清正
(昭和22年 亥年生まれ 8期目)

町民の皆さんと共に、防災対策や次世代を支える子どもや孫たちの教育を考え、心安らぐ町づくりに尽力します。



議員 矢口 政一
(昭和20年 酉年生まれ 7期目)

町民の皆様と共に、先代が構築した品格ある金山町を現社会でも継承可能な施策展開を図り、恒常的な検証に努めたい。



※写真の並び順

「子年の決意と抱負」